

まだまだ寒い日が続き、空気も乾燥しています。この条件がインフルエンザなどのウイルスにはとても生存しやすい環境だそうです。インフルエンザも流行っているようなので、体調管理には十分お気をつけください。



有限会社美栗陸送 代表取締役 栗本佳孝

12月初旬に東京モーターショーに行ってきました。

私は生まれて初めての東京モーターショーでしたが、今回から千葉の幕張ではなく東京都内での開催ということもあって、かなりの賑わいをみせていました。

モータリゼーションのモーターショーから電気モーターのモーターショーといってもいいほど、自動車は自動車メーカーの物ではなく、電気メーカー、ベンチャー企業、大学なども電気自動車へ参入していました。

後数年で、内燃機関の自動車からモーターで動く自動車へと変わっていく時代に、私たちはいることを強く感じました。



(↑岐阜県関市 D Art 様の出展)

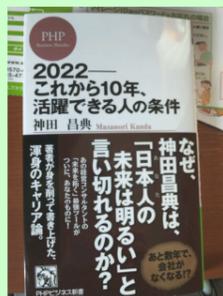


(ホンダ 電気自動車)



(日野デトロ プラグインハイブリッド)

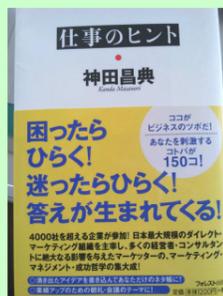
今月のお勧め本紹介



著者の神田昌典氏は、私が進めています DRM (ダイレクトレスポンスマーケティング) を10年以上前に日本へはじめて持ち込んだ方です。

この本を読んで、これから自分はどのように行動していくのか、自分や周りの子供たちにどんな未来をみせてあげるのかを考えさせられる本でした。巻末に2022年になったとき開くページがありますが、空欄になっています。そこには自分で2022年の自分を描きます。

10年後がとても楽しみです。



これも神田昌典氏の本ですが、当たり前前のことが当たり前前に書かれています

しかし、その当たり前前の事ができていないことが多いのに自分でも驚きました。

今月、著者の神田先生にお会いする機会がありますので、そこで伺ったお話をお伝えできると幸いです

お客様の立場で考え行動する 有限会社美栗陸送

岐阜県岐阜市細畑1-8-7 TEL: 058-213-6445 FAX: 058-213-6446

住宅街の安全走行について

車が走行するのは幹線道路だけではなく商店街や住宅街の道路なども走ります。大通りは車が主体といってもよいのですが、一歩中へ入る場合はそうとはいえません。

特に住宅街の道路は歩行者や自転車が主体であり、車はどちらかというと邪魔者です。住宅街の朝夕は通学・通園する子供たちが道路にあふれます。

そこで、子供との事故防止を中心に住宅街の安全走行について考えてみました。子供との事故を防止するためには、まず子供の行動特性を認識することが大切です。子供の主な行動特性をあげてみると、次のようになりました。

- ⇒ 遊びに夢中になると、他のものに対する注意が失われるため、安全確認もせずに道路に飛び出す。
- ⇒ 数人の子供が歩道を歩いているときは、ふざけあって急に車道に飛び出してくる。
- ⇒ 道路の反対側に自分の興味を引くものがあると、安全確認もせずに道路を横断してくる。
- ⇒ たとえ親と手をつないでいても振り切って飛び出してくる。
- ⇒ 他の子どもの真似をすることがあるので、一人の子供が道路に飛び出してきたら、続いて何人もの子供が飛び出してくる。
- ⇒ 身体が小さいため、駐車車両の陰などに簡単に隠れてしまうので、他者が見えにくく、またドライバー側からの発見も遅れてしまう。
- ⇒ 子どもは判断力が未発達なので、すぐ近くまで接近している車に気づいても、まだ渡れると判断して飛び出してくる。

住宅街での子供との事故を防止するために、特に次の点に留意しましょう。

- 朝夕の通学・通園時間帯は、できるだけ学校周辺の道路や通学路は走行しない。
- 学校や公園付近の道路に駐車車両があるときは、駐車車両の陰に子供がいないかどうかをよく確認し、子供がいるときは、いつでも停止できるような速度で進行する。
- 前方の脇道から子供が飛び出してきたときは、続いて飛び出してくることを予測して、脇道の手前で一時停止して安全を確認する。
- 道路脇や歩道に子供をみかけたときは「子供は飛び出すものだ」と考えて、十分に減速するとともに子供の動きから目を離さない。
- 特に道路の両側に子供がいるときは、急に道路を横断してくる危険性があるので注意する。



住宅街の道路は「生活道路」でもあり、歩行者や自転車が主役の道路です。また、道幅の狭い道路が多く、信号機のない見通しの悪い交差点や脇道が多いのが特徴です。それを踏まえて、スピードを落として走行するとともに、特に次の点に留意しましょう。

- 住宅街の道路では自車が優先ではなく、歩行者や自転車が優先されることを常に念頭に置いておく。
- 前方に歩行者や自転車がいたら、急に道路を横断してくるかもしれないと考える。
- 薄暮時は子供だけでなく、買物などで住宅街を通行する人も増えるときなので、早めにライトを点灯して自車を目立たせる。
- 見通しの悪い小さな交差点やわき道のあるところでは、子供や自転車の飛び出しを予測する。一時停止の標識や標示のあるところでは、確実に停止して、しっかり左右の安全を確認する。

以上ですが分かっても子供の動きは予測以上です。

常に注意し安全に走行しましょう。

(犬塚芳彰)